

「夢への架橋」 チャレンジ・プロジェクト

長崎大学は、学生諸君が夢や志を育み、その実現にまい進することのできる場であり続けたいと思います。そのために、学生諸君に多くの新鮮な出会いの機会を提供し、主体的学びや実践の背中を押すべく、日々心を砕いています。

そんな試みの一つが、今回のCHOHOが取り上げている「夢への架橋」チャレンジ・プロジェクトです。10年前から継続してきた「夢募集」を発展的に解消し平成26年度にスタートしました。学生の夢実現企画を公募し、その中から学長と学生委員会教員からなる選考委員会での面接審査で毎年約10件の企画を選び、上限50万円の支援を行います。

過去2回の印象は、荒唐無稽な夢の提案は少なく、地に足のついた専門性を踏まえた企画が多いことです。したがって実践の過程で取組内容が進化し、企画段階よりも格段に事後の評価が跳ね上がる場合があります。その代表例が、今年の後評価で学長賞に輝いた「美しい長崎の

海を!!」です。当初は漂着物の海浜清掃を行う普通のボランティア活動という印象であったのが、1年後の成果発表会では唸られました。水産学系学生グループが「ながさき海援隊」としてスタートした活動は、急速に他学部生や地域のNGOや自治会へとネットワークを拡大し、今や地



域おこしにも一役買うところまで発展を遂げていたのです。さらに注目すべきは、漂着物の分類など調査活動を行い学会発表など学術的な展開にもつなげている点です。そして、彼らの夢は、もう国境をこえて海外の海にまで及びつつあるようです。

順調なスタートをきった「夢への架橋」チャレンジ・プロジェクトが、今後さらに成果を積み重ね、長崎大学の目玉プロジェクトとして定着、発展することを期待します。学生諸君の柔軟な頭脳から生み出されるアイデアと疲れを知らない行動力、そして失敗を恐れないチャレンジ精神こそが、その原動力となります。

片峰 茂

CONTENTS

長崎大学広報誌
[チョーホー]
Choho Vol.53

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌Choho vol.〇から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡願います。

学長室だより	「夢への架橋」チャレンジ・プロジェクト	1	表紙のはなし
特集	チャレンジする 長大学生	2	台風一過の長崎の海、橘湾を背景にすくと立つのは「ながさき海援隊」のメンバー。長崎のあちこちの海浜清掃をしながらゴミの分析を行って環境問題を考えるグループで、地域からの厚い信頼を集めています。左から尾崎健史さん、山喜邦次さん、平田大樹さん(いずれも水産・環境科学総合研究科2年)
新コーナー サークルの星!	ヨット部/囲碁同好会/全学サッカー部/剣道部女子	13	
長崎大学のいま!	多文化社会学部	15	
大学の研究最前線	茶葉の摘みごろを見張って知らせるテクノロジーの開発	19	
Information	ながさき水産科学フェア・テクノパワー土木おもしろ体験隊・長大祭	21	
	長崎大学「通」クイズ	22	
	編集後記	22	